

2024年10月4日(金)9:00からCRTスタジオで収録

予習について考える

－なぜ予習をすると授業がわかりやすくなるのか－

開倫塾

塾長 林明夫

Q：効果的な予習の方法とは何ですか。予習の目的とは何ですか

A：(1)①「授業で何をやるのかの見通しを持つこと」

②「授業を深く理解するための必要な知識を持っておくこと」

(2)①「授業が終わったときに、『バッチリわかった』という状態になっていることが予習の目標」

②「予習と授業をセットで考えておくこと」

(3)①「授業中にしっかりと理解するために、授業でどんなことをやるのかのイメージや授業内容に関する知識を、予習によって大まかに持つこと」

②「そうすれば、あとはわからないところ、注意して聞きたいところを押さえて授業を聞けば、理解の仕方が変わってくる」



Q：予習で大切なことは何ですか

A：(1)①授業前の休み時間の5分でできるくらいの予習でOK

②授業の大まかな内容を把握しておく

(2)①予習の段階では、「わからないこと」がわかることが大切

②内容を理解できなくてもOK

(3)①教科書を読んでもまったくわからないような難しいことばかり出てくる内容を、授業を1回受けただけで深く理解するのは難しい

②だから、たとえわからなくても、「この式のここの意味がわからない」「少なくとも授業でここまではわかるようにしよう」といったことを、予習から考えられるようになるだけで十分

(4)①このように、予習では、「次の授業でどのようなことを学ぶのかを知っておくこと」「次のイメージを持つこと」が大事

②授業を理解するために必要な知識をもつこと



Q：エッ、「知識」が大事なのですか

A：(1)①勉強では、一つ一つの「知識」について、「なぜ」を理解して、その背景を押さえておくことが大切

②例えば、世界の歴史の勉強なら、歴史の「なぜ」を理解することを目標に、教科書の流



れに沿って、その時の各国のもくろみなどがわかるように、世界地図を見ながら理解することです

(2) 「なぜ、イギリスはインドを支配したのか」、「なぜ、イギリスはエジプトを支配したのか」、などについて、自分のことばで説明できるようにすること

(3) ① 予習をして、先に教科書を読んで、教科書にある知識が頭にある状態で授業を受ける

② 予習をして、どんな内容を扱うのかについて見通しを持つ

③ 新しい知識を結びつけながら、その知識について「なぜ」そうなるのかを理解することを目指す

(4) 予習で得た教科書レベルの知識と、授業で先生から授業を与えられた一つ一つの知識について、「なぜ」を理解することが「深い理解」に結びつく

(5) ① 予習をせず、授業の後に教科書を読むのでは、「先生による授業」の理解が追い付かない

② 難しい話、複雑な話を、きちんと理解するためには、予習によって教科書に書いてあるような知識を前もって持っておいたほうがよい

③ 私たちは、自分の知っていること、つまり、予習により知ったことと、授業により先生から教えて頂いたことを結び付けながら、ものごとを深く理解しているからです



Q：なぜ、授業内容の予習をしておくのとよいのですか。例えば、英語の勉強のときに「教科書に載っている単語の意味を調べておく(単語意味調べ)」とか、「教科書の英文はすべてノートに訳しておく(和訳)」という予習は、役に立つのですか

A：はい、3つの点で予習は役に立ちます

(1) まず第1は、予習をすると、わからないことをチェックしながら、授業が聞けるようになります

(2) 予習で、英単語や英文の意味を自分なりに推測しておく、授業では、自分がわかっていないことが何かをチェックしながら聞けるようになるからです

(3) このように「自分なりに考えおく」という予習をすると、積極的に授業を受けられるようになります



Q：第2番目は何ですか

A：(1) 予習をすると、自分のことばでメモが取れる、授業中にノートが取れるようになります

(2) 「単語を調べておく」「英文を訳しておく」などの予習をしておく、授業中に「自分のことばでメモを書き込む」「板書には書かれていない大切な内容もメモ、ノートにとる」ことができます

(3) ① 自分のことばでメモを残し、ノートを取るということは、「授業で聞いた情報」、つまり「先生から授業中に教えていただいた新しい知識」と「予習により得た自分の頭の中の知識」をつなぎ合わせて、はじめて可能になります

② 予習で調べた内容を、教科書やノートに書き残しておけば、授業中に先生から教えて頂いたことを新しい情報として書き加えることができます。又、もし自分の訳が少し変なら書き直すことができます。頭の中だけでなく、予習のときに前もって教科書やノート

に情報を書き出しておけば、そこに授業中に先生から教えて頂いたことや、授業後、更に勉強したことを情報としてつなげていくことで、精緻なものにできます

- (4)①同じノートを使って学習を繰り返すと、どんどんメモが増えていきます
- ②また、予習のときに「英語の訳」を書いておいたり、単語の意味を書いておいたりすれば、授業中の情報がつながりやすく、メモも取りやすくなります
- ③ですから、「ノート」は、はじめから大きめのノート、具体的にいうと「A4版ノート」を使うことをおすすめします
- ④今までは、「A4版ノート」は手に入りにくかったのですが、今では、コンビニエンスストア「ローソン」の文具売場、「MUJI(無印良品)」のコーナーで売っています。是非、1冊買い求めて、使ってみてくださいね。「A4版ノート」1冊 190円(税込み)ですA4版ノートを心からおすすめします
- 「A4版のノート」を使いこなして、成績が急上昇、超難関大学に合格した塾生がたくさんいます。
- 大学や大学院入学後も、「A4版ノート」は役に立ちます。大いに「A4版ノート」に慣れ親しみ御活用ください



Q：第3番目は何か

A：第3番目の効用として「予習すると質問できるようになります」

(1)例えば「数学について」

- ①学校の教科書のこれから習うところを読んでおく
- ②授業でやりそうな例題を解いておく
- ③なぜそうなるかを考えながら教科書を読む
- ④教科書のわからなそうなところに「印」をつけておく

(2)以上のように「予習」をしておくとうどうなるか

- ①予習をすると単に先生の板書を写すだけのような受け身の受け方ではなく、「なぜ」を考えながら授業(説明)を聞くようになります
- ②予習によって授業中のメモ、ノートが増え、大切なところや自分がわかっていないところをチェックしながら聞くことができます
- ③「深い理解」が得られるようになります

(3)①質問ができるようになります。何がわかっていないかがわからないと、授業中に質問ができないからです

- ②自分の知っていること(予習によって自分があらかじめ知ったこと)と、目の前にある情報(先生から授業で新しく教わったこと)を照らし合わせて、うまく噛み合わないことがあると私たちの心の中は「モヤモヤした状態」になります

③こうしたモヤモヤした状態は気持ちが悪いと感じますので、この状態をなんとか解消しようとする働きが「授業における質問」です

(4)①「自分の知っていること」と「授業で知ったこと」との「食い違い」が質問の出発点です

- ②ですから、「ある程度の知識を持っていないと質問はできない」、「予習をして教科書を読んだり、問題を解いたりすることで、授業中に質問しやすくなる」といえます



- ③このように、予習をすると、授業に参加しやすくなります。授業中の議論に参加しやすくなります

Q：予習の効果を高めるにはどうしたらよいですか

- A：(1)①予習で得た知識について、「なぜ～なんだろう」という疑問をもち、そうした問いを解消しようと授業を受けると予習の効果が高まります
- ②「なぜ」の「理解」を大切にすることが「予習の効果」を出す上で大切です
- (2)①更には、「なぜ」についての自分なりの解答(答え)や予想(こうなのかもしれない)を、ノートや教材に書いておくとより効果的です
- ②「なぜそのように解けるのか」「なぜその公式が成り立つのか」について、自分で証明を考えるのは至難の技ですが、「なんでだろう」という疑問を持ち、そこに注意して授業での先生の説明をお聞きすることが大切です
- (3)このように、大まかでよいので、どの教科のどの単元でも、予習を行い、授業で何をやるのかを知っておく、「なぜを問う疑問を用意しておく」ことが大切です
- (4)くどの教科のどの単元でも、授業に向けた「なぜ」の問いを、>
- ①数学：なんで、この解き方で答えが出せるのだろう
なんで、この公式が成り立つのだろう
- ②英語：なんで、この英単語はこの意味なのだろう
- ③国語の物語文：なんで、主人公はこんなセリフを言ったのだろう
- (5)予習を行い、授業に向けた「なぜ」の疑問を持ち、授業中にそれに注目すれば、「理解」を「深める」ことができます



Q：予習をすると、授業中の議論が活発になるのですか

- A：(1)はい、その通りです
- ①予習は、先生が教科書に沿って、そこにはっきりと書いていない知識の「なぜ」を教えてくださいに役に立ちます
- ②これに加えて、学校の授業では、先生の授業を一方向的に聞くだけではなく、「ペアやグループで議論をしたり、協力して課題を解決する」場合が、最近は数多くあります
- ③「主体的、対話的で深い学び」を目指し、先生方は授業中に皆さんが「対話をする時間」をたくさんつくってくださっているからです
- (2)「議論をするような授業に向けての予習」はどのように行えばよいのですか
- ①「自分の考えを用意しておく」ことです。そうすると、「深い議論」がしやすくなります
- ②予習をし、教科書やノートに、自分の予想や疑問を書いておくことです
- ③メモを書き残し、自分の頭の外(ノート)に情報(予想や疑問)を記録することも役立ちます
- (3)①授業中に議論をするときには、発言する前に、質問や自分の意見や発言する内容を前もってノートに書き出しておくことをおすすめします
- ②そうすれば、意見を言うのが恥ずかしいと感じている人でも、意見が言いやすくなるからです

③だからといって、予習で全部理解する必要は全くありません。どんなことを学び、議論するのかを前もって知るだけで、十分です

Q：授業を深く理解するためにはどうしたらよいのですか

A：(1)予習をして、授業で扱う内容の全体像を押さえておくこと

(2)特に注意したいところを見つけておくことが大切です

(3)教科書を読んで予習をしても「なぜ」を理解することを大切にしない「理解」が深まらないからです



いと

Q：どうすれば苦手な科目や嫌いな科目の予習ができるようになりますか

A：(1)①なるべく「予習の負担」が少ない、「簡単な方法で予習をする」ことが大切です

②「予習の負担」が少ない方法で予習をするようにしましょう

③「なぜ」よりも「そもそも」の方が「予習の負担が」が少ないようです

(2)①この「そもそも」について考えていくと、「授業で出てくることば」と結び付けることができます

②例えば、数学や理科の勉強には、いろいろな「用語」が出てきます

〈例〉数学：「虚数」「等比数列」

物理：「質量」「モーメント」

(3)①これらの「用語」が教科書に出てきたときに「そもそも虚数って何？」

「そもそもモーメントって何？」といった問いを立てておけば、授業ではその「用語」の意味に注目しながら学習することができます

②これだけでも「立派な予習」です

③「一つ一つの言葉に注目する予習の方法」はとても役立ちます

(4)①よくわからないことば(語句)があったら辞書で意味を調べることも「予習」に含まれます

②英語の意味を調べておくことも「予習」に含まれます

③「そもそも」を「キーワード」に用語に注目して「予習」。こんなことばがあるのだと頭に入れてメモをしておけば、苦手科目、嫌いな科目でも、質の高い理解が得られます

(5)①一つ一つのことばに注目して、大切と思われる「用語」や「語句」についてことばの意味を自分なりに取りまとめ、「ことばの『定義集』」をノートや教科書の一角に作っておくことをおすすめします

②折に触れ、この「ことばの『定義集』」を声を出して読んだり、ノートや教科書の1ページから「ことばの『定義集』」として、まとめて読み返せば、自分のものとして身につきます

③「ことば」の「定義」が「自分のもの」となります。「自分のことばで言える(表現・説明できる)」、つまり、「深い理解」にもつながります

(6)①各学年、各教科、各単元でこのような「深い理解」ができた知識を少しずつでも増やすことが、「人生の選択肢を多様」にし「多様な選択肢のある人生を歩むこと」にもつながります

②「正常に機能する社会の形態に貢献すること」そして「地域を支える人材になること」にもつながります



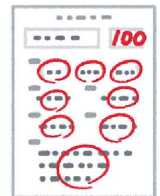
復習での工夫

Q：なぜ復習をするのですか

A：(1)①その日に授業で学んだ内容をしっかりと頭の中に定着させるためです。学習は1回で成立するものではなく「予習→授業→復習」というサイクルを通して「深まっていく」ものです

②そのために「学んだことを確実に身に着ける」ためには、「上手に復習する」必要があります

③「定期試験」のようにテスト前にテストの範囲をまとめるために勉強するときには、「何度も音読練習、書き取り練習をして、スミからスミまで覚える」という勉強方法は絶大な効果を発揮します。1～2か月かけて取り組めば、誰でも全教科「定期試験で100点満点が取れ」、「学校成績(校内順位)」は飛躍的に急上昇します



(2)①しかし、これは「定期試験」のような、まったく同じ形式の問題には対応できますが、余り、応用の効果が効かないことが多く、業者模試や入学試験、特に難関校の入試問題のような、「少しひねった問題」では適用しません

②そんなときには、まずは、問題を解いた経験を生かして似たような問題を解くことで、「考え方のコツ」や「解くときのポイント」をつかむことです

③複数の問題を解いた上で、それらに共通する特徴やポイントをまとめておく。そして、別の似た問題に適用する際に確信をもって答えることができるようにしておく

④解いた問題から、他の問題に使えるようなポイントを、引き出しておくこと

⑤特に、数学や理科の問題が解けなかったときには、自分が解いた問題を振り返って、「どのようなタイプの問題か」「この手の問題を解くにはどう考えるとよいか」などを押さえることです。英語、国語、社会も同じことがいえます

Q：「自分にはこの知識が足りなかったから解けなかった」「もっとこういうことを大事にしながら勉強しておいたほうがいいな」と感じたら、どうすればよいですか

A：(1)「^{ごとうぶんせき}誤答分析」、なぜ間違っただかを自分の力で考えることが大切です

〈間違えた問題に「印」をつける〉

①そもそも知識が不足したために間違えたときには、よくわからない所までさかのぼり、教科書などを学び直す

②うっかりミス(ケアレスミス)…問題文や設問の読み違いには、ていねいに問題文や設問を読むよう「気を付ける」ことが大切です

③計算ミス…「計算練習」あるのみです

④応用力不足(問題がひねってあるので解けなかった)

(2)「応用力不足」の場合には、「まとめノート」や「間違いノート」を作成。徹底的に研究するのみです。1日でも、2日でも時間をかけ、自分の力で徹底的に調べ、考え、なぜそのような解答になるのか考えること。これに尽きます

*本稿は篠ヶ谷圭太著「使える！予習と復習の勉強法－自主学习の心理学－」ちくま新書、筑摩書房 2024年4月10日刊 第5章「効果的な予習法(P141～174)」を参照し、まとめたものです

(2024年9月26日)